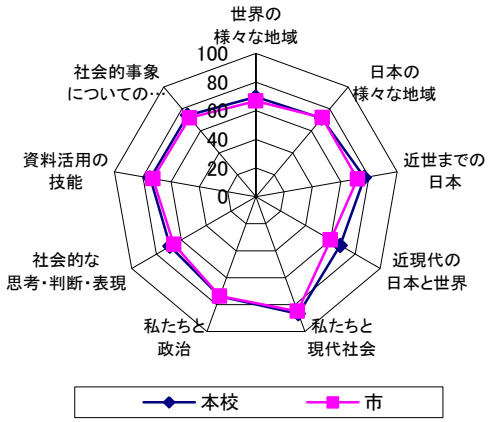
宇都宮市立古里中学校 第３学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	69.6	66.8	54.1
	日本の様々な地域	71.5	72.1	63.4
	近世までの日本	76.8	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	67.9	60.0	55.2
	私たちと現代社会	86.8	85.0	73.0
	私たちと政治	73.8	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	69.0	66.1	52.0
	資料活用の技能	74.8	72.8	63.0
	社会的事象についての知識・理解	74.1	72.0	64.9

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため，参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好なもの　●課題が見られるもの

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	○全部の問題で、宇都宮市の正答率を上回っている。 ●地図上に描かれた分布や変化をとらえることはできる反面、その原因や他との関連などが問題に加わると理解が困難になる傾向がある。	基礎的な理解を積み上げ、地理的事象を多角的にとらえられるよう、資料の精選をはかるとともに、思考力を高める時間を授業時間中に確保できるようにしたい。
	日本の様々な地域	○　日本の自然災害についての正答率は92.8%と高かった。 ●　雨温図の読み取り、日本の人口分布に関する三種類の統計値の判別、中京工業地帯についてのグラフの読み取りについての正答率は、宇都宮市の平均より2～6%低かった。	言葉で示された気候の特色が、グラフ化されると読み取りが困難になる傾向がある。グラフの読み取りをもとに、そこから引き出される内容・特色を文章化するような形で継続的に指導していくことにより改善を図りたい。また、地理学習には地図（空間的位置）とデータ（数値的位置）という二つの要素が欠かせないことに気付かせたい。
歴史	近世までの日本	○縄文時代の遺跡についての理解をもとに、資料を読み取る問題の正答率は100%であった。 ○全部の問題で、宇都宮市の正答率を上回っているだけでなく、全体としての正答率が非常に高く、生徒の興味関心も高い。	全体的な正答率の高さや、生徒の興味関心の高さの原因として、関西方面への修学旅行や、世界遺産の日光や学区内に旧奥州街道が通っていることなどの歴史的背景が関係していると考えられる。このような現状を今後も崩すことなく、伝統文化の重要性や地域の大切さを伝える機会を設けるようにしたい。
	近現代の日本と世界	○全部の問題で、宇都宮市の正答率を上回っている。特に、冷たい戦争と世界の動きについての理解を問う問題では、約80%の生徒が正答している。 ○歴史学習が日本史だけでなく、世界史的展開を含んで複雑化する中、比較的よく理解が進んでいる。	この分野は公民的分野、高校の現代社会との関連があるため、より一層の深化を図るため、常に視点を現代において生徒に考えさせる方針を徹底したい。
公民	私たちと現代社会	○全部の問題で正答率が高く、宇都宮市の正答率を上回っている。	この領域は、自分たちが実際に接している社会の分析にあたる内容であるので、自分がこの社会の中でどのような存在であり、どのようなことが求められているか、また将来どのように関わることが必要かなどについてしっかり考えさせたい。そのために、多方面にわたる自校化を行い、このことにより生徒の変容が期待できる授業を進めていきたい。
	私たちと政治	○　フランス人権宣言の主な内容については90%以上の生徒が理解している。 ○　基本的人権の尊重、裁判のしくみ　国会と内閣の関係についてはよく理解している。 ●公共の福祉・環境アセスメント・法律案成立など、時事問題ではよく取り上げられることへの基礎知識が不十分で、事例をもとに考えたりすることができなかった。	時事問題に関する知識不足で、事例をもとに考えたりすることができない原因として、時事問題に関しての生徒の興味・関心が低いことや、これらを自分自身の問題としてとらえられていないということが背景にあると考えられる。そこで、時事問題を授業で積極的に取り上げ、事例を自ら追究できるよう訓練していきたい。また、家庭内でもこれらについて話し合うよう、家庭への啓蒙も行っていきたい。